

# 目次

働くとは	…P2～
教育～伝わる仕組みを作ろう～	…P5～
日本の難民と私たち	…P10～
経済格差	…P13～
成人～大人ってなんだろう～	…P19～
日本×スポーツ	…P23～

# 働くとは

参加者名：大岩尚生, 木村菜々子, 西俣結貴, 町田彩夏,

佐藤史也, 金子美穂, 柴宮史佳

## <現状>

仕事がたくさんある人、仕事がない人で二極化している。  
二つの現状を分析した結果、働きたいのに働けない人がいることがわかった。

## <要因>

働きたいのに働けない人がいる要因は5つ。  
病気の場合(うつなど)、学歴がない場合、学歴があっても就職難の影響、  
リストラ、退職(結婚、妊娠)について議論した。

## <理想>

働く環境を整える。  
働く意欲を向上させる。  
・子どもを産もうと思う  
→少子化に歯止め。  
・選択が出来る社会  
→自由に人生設計が出来る。(社会復帰)  
・より多くの人が働ける社会  
→フリーター、ニートの減少。

## <改善策>

### ○働きやすい環境を整える(福祉と失業対策)

#### (現状分析)

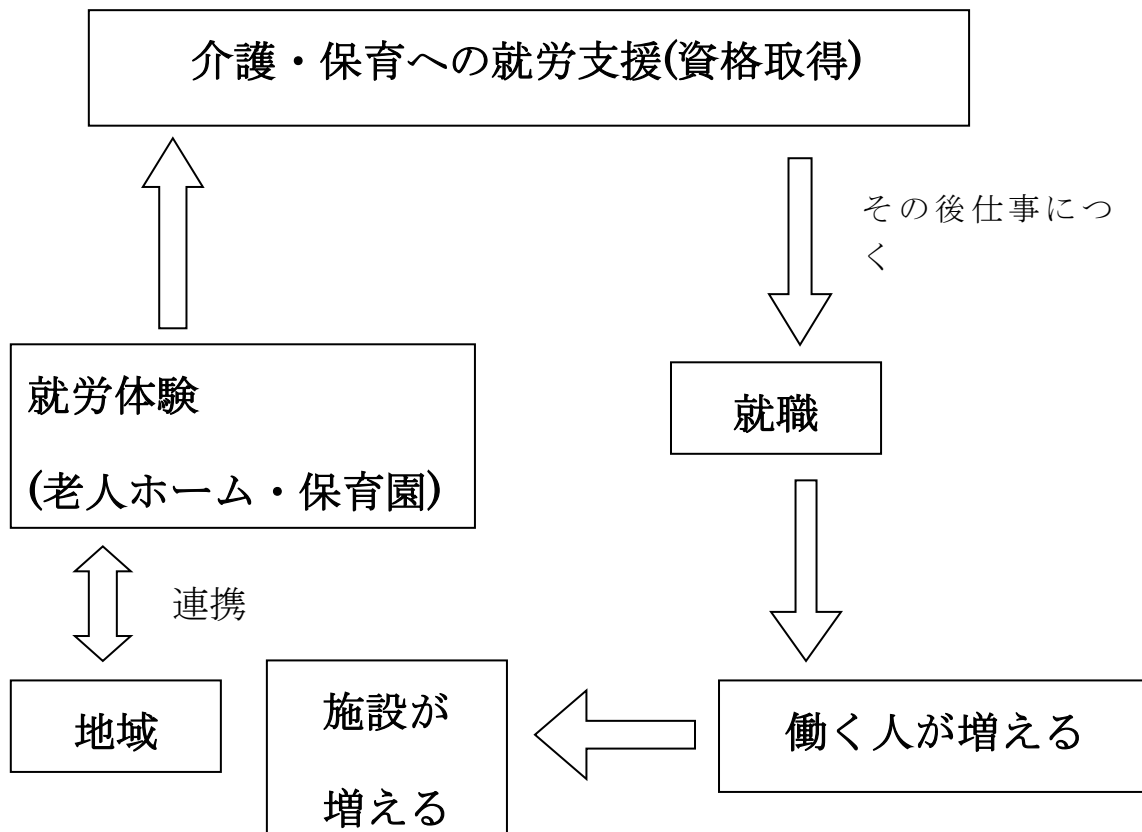
女性は、子育てや介護によって退職をしてしまい、その後の復職も難しい。  
フリーター等は、働きたくても働けない。

#### (プラン)

地域(地方自治体)が老人ホーム、保育園などへ、職を希望する者を派遣する。

### (連帯)

そして資格取得を目標に、就労体験を通し、介護・保育への就労支援を行う。  
結果、職を希望する者の就職(正規雇用)へつながり、働く人が増える。  
よって福祉施設が増え、復職を望む女性の働きやすい環境ができる。



### 厚生労働省の皆様へ

福祉施設(老人ホームや保育園など)と資格を取得した者の増加を見込んで施設の建設予算を増やしてください。

### 各地方自治体・各福祉施設の方へ

- ・各地方自治体は、職を希望する者を各福祉施設へ紹介してください。
- ・各福祉施設は、各地方自治体から紹介された者の就労支援をお願いします。

## 感想

1年前、前回の参加者です。

自分と周りにいる人たちの成長を強く感じました。

「働くとは」で、改めて働くことについて考えることができ、楽しかったです。

高2 大岩 尚生

私はこの子ども国会が私にとって初めての中高生同士での議論の場でした。

「働くこと」という私あまり普段考えないテーマであり、発言に詰まることもありましたが、新たな発見が多々ありました。次回も機会があれば参加したいと思います。

高2 西俣 結貴

最初は緊張して、がちがちだったけど、だんだん慣れました。自分の意見もたくさん話すこともでき、他の人の意見を聞いて、他の考え方を聞いたことが楽しかったです。来年も行きたいです。

中1 木村 菜々子

普段何気なくとらえていた「働く」ということについて同世代の人と話したことで、ぼんやりとしてた「働く」ことのイメージが以前よりくっきりしたように感じます。将来、働いていく上で直面する問題はたくさんあるんだなということにも気づかされました。

自分の就きたい職業に就けるように努力していきます。

高2 町田 彩夏

# 教育～伝わる仕組みを作ろう～

参加者名：高橋和樹, 斉藤由佑也, 川口萌, 高橋優華, 福井周, 宮崎理紗,  
深野莉帆, 野田雅満, 高野拓貴

**問題：**生徒の声が大人に伝わっていない。

## 解決策：

問題意識を持った者同士が団結し、生徒同士が自主的に問題を解決できるような場を設ける。また、生徒と大人が向き合う機会を作り、納得できる結論を導けるようにする。そして最終的に結論を共有できるサイクルを構築する。

## 大人たちにやってほしいこと：

- ・私たちのシステムを広め、実践してほしい。  
→募集したモデル校・国立学校での実践。
- ・「意見を伝える力」を養える教育プログラムを組み込んでほしい。  
→授業をまとめるスタイルを取り入れられるのでは？（ex.歴史の授業）

## 自分たちにできること：

- ・思ったことは口に出して他の人と共有しよう。
- ・ものごとを話し合っ決めて決める姿勢をもとう。
- ・自分の考えを書くことによって見直し、分析できるようになろう。

## 現状と問題点

### ①意見が通って嬉しかったこと。

#### 緩和

第三者が決めた寮の門限を先生と協力して延長した。  
同好会のつくる条件が緩和された。  
体育祭が5月から9月になった。

#### 許可

文化祭に3年生が参加可能になった。  
冬のひざかけの使用ができるようになった。

#### 個人

個人的な課外活動による公欠が認められた。  
個人レベルの大会への出場が認められた。

#### その他

意見箱ができた。  
教室にオルガンがなかったのが、訴えたら入った。  
体育の授業をつぶしてドッジボールをしたり、  
試験前は自習にしてもらった。  
体育祭などのごほうびが多い。

## ②意見が通らなかつたり、伝わらなかつたりして不満に思ったこと

一番の問題点は、「お互いの意見が相手に伝わっていない」ことにあると思います。

中学校で制服改正委員会を開こうとしたが人が集まらず発足しなかつた。

### 生徒 vs 生徒

部活の曲選びで部長の好きな曲に強制された。

### 部員 vs 部長

かばんの自由化や制服の変更などの場合、学校の歴史を理由によく却下される。きびしい規則や校則など、「これってエゴじゃないの？」と思う。

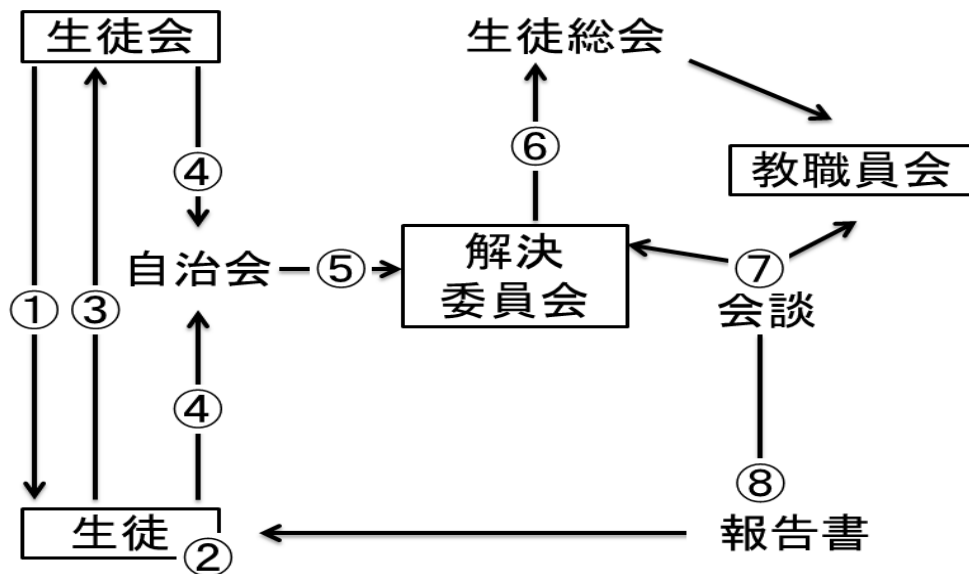
### 生徒 vs 学校の歴史

修学旅行の携帯がNGになった。意見を出せない。出す環境にない。

### 生徒 vs 先生

生徒会が生徒の要望をきいてマニフェストをかかげたのに、やってくれなかつた。生徒会まで要望が届かない。

### 生徒 vs 生徒会



①ルール、システムを明確にする。

→年度の初めに1年生のために集会を行う。

目的：「学校は変えられる」その仕組みを知るため  
(+守ってもらう) →ルールに興味

②生徒同士の団結

→文書・署名をもとに説得力・合理性を持たせる。  
(校則・設備・活動など)

③生徒会に提案してみる。

条件：責任を取れるものか？非常識でないか？  
→ダメなら抑止権発動

④「自治会」を行う

…全生徒と生徒会が参加する。  
皆で問題意識を共有  
賛否を聞き、注意点（可決しない可能性がある）を説明。

⑤「解決委員会」を結成

- ・有志でグループを作る
- ・書類をつくり、嘆願する準備
- ・内容を練る

⑥生徒総会で直訴（主催：生徒会）

初めて大人と向き合う機会

⑦関係者には期日までに書面で返答をもらう（理由を添えて）。

納得いかない場合、双方で会談を行う。（公開制）

⑧可否にかかわらず、最後は報告書にまとめる。



## 感想

ぼくは、教育分科会で討論をして、ふだん自分の意見を言っても通らない時、だれとだれが関わっているのが原因なのかがここで討論をして分かりました。2日間様々な意見をかわしました。なので、それを日常生活や、学校の間などでいかしていきたいです。

小6 高橋 和樹

学校という教育を行う場において、自分達で見つけた問題を自分達で解決していく、というのは、一番いい教育になるのではないか?と思う。だが、今回の分科会で出た意見では、そのようなサイクルは実現できない、できていない、というものが多かった。それに対して僕らは有効な仕組みを考えられたと思っている。

そのような仕組みをメンバーで協力して考えられたことにかなりの喜びを感じている。それにこの仕組みは本当に日本を変えられると思うし、変えてほしいと思っている。

中3 福井 周

この2日間の討論のなかで、受けるだけでなく教育なのではなく、自らが考え、発信することも同じように大切なことがらなのだと気付かされました。この経験を生かし、学校や教育についてももっともっと考えたいと思います。

高2 高橋 優華

学校とは、多くの問題を抱える場所である。しかし今回の教育分科会では、そのような諸課題に対し、見方を変えることや原因の分析・細かい考えを巡らせることによって解決への道のりを導き出すことが可能である事を示すことができたと思う。また、私たち皆で協力してより豊かな学校生活を送るすべを見つけられたのではないだろうか。そしてこれを共有し、伝え、進んで実践していきたい。

高2 齊藤 由佑也

大切なのは、1人1人が自分の意見をもつこと、そしてそれを伝えること。これは、学校だけのことではないと思うが、今回は学校での問題を深く考えました。大人に意見を伝えるにはどうすればいいのか。私1人の考えでは、全くでてこないような意見を聞いて自分自身の視野が広がったと思います。これから沢山の意見を共有して伝えていける場を大切にして、学校生活楽しみたいです。

中3 川口 萌

意見の通らないことを学校のせいであったり、生徒会のせいであったり、責任転嫁している自分がいました。討論でそのことをぶちまけ、意見をいい、宣言書にまとめていこうとする中で自分でもかえていけるのだ、という意識をもつようになりました。小学生から高校生まで様々な意見を聞いて、新たな見解をもてたこと。それもまたこの討論で良かったと思いました。参加できて良かったです。

中2 宮崎 理紗

# 日本の難民と私たち

参加者名：宇津木大樹, 藤村なほ, 堀内彩夏, 近藤レオナ, 児島桜子,

會木千裕, 玉木晴海, 大澤麻美

## <現状>

- ① 差別  
…認知度が低いため相談する相手もおらず学校や職場での差別やいじめがおこっている。
- ② 手続きの問題（難民申請のための）  
…手続きが複雑で時間がかかる。また、手続きがおわるまでの難民の生活が支援されていない。
- ③ 言葉  
…言葉が通じない（話す、書く、よむことにおいて）  
言葉が通じないため、異文化の理解ができず、コミュニケーションがとれない。

## <理想>

- ① 差別  
…日本国民、難民がおたがいに理解しあい、対等な関係を作る。
- ② 手続きの問題  
…手続きをスムーズに。申請中の生活の支援の充実。
- ③ 言葉  
…言葉が誰とでも通じる。誰とでもコミュニケーションをとれる。

## <解決にむけて>

### 政府—法務省の皆様へ

- ②手続きの問題に関して
  - ・現在日本語でしか記入できない申請書類の英語での記入を許可する。
  - ・申請書類に対応する人員を増やし時間を削減する。
  - ・空港に難民ゲートを設置し、難民向けの難民申請のための書類一覧と、生活するための指さしマップなどを渡せるようにする。

## —文科省の皆様へ

- ① 差別の問題 ③言葉の問題に関して
  - ・多宗教、多文化教育をすすめるため、初等教育の生活科の時間や図書館、公民館に文化や産業などの資料をおく。
  - ・学校のプログラムとして、日本にいる難民に話を聞く会を開催するように呼びかける。
  - ・英語教育の充実。(難民、国民両方とも)
  - ・難民への日本語教育の充実。

## 企業の皆様へ

- ① 差別の問題に関して
  - ・大人達の意識を変えるため、企業のプログラムとして、海外の研究機関との交流。
  - ・採用に難民枠を設ける。
  - ・難民に関する勉強会を開催する。

## マスメディアの皆様へ

- ① 差別の問題に関して
  - ・UNCHR、ILO 等の CM を流し、難民の認知度を上げる。

## 自分たちにできること

- ① 差別②手続き③言語
  - ・以上のプログラムを通して、異文化理解を深め、難民に対する意識改革につなげる。
  - ・自ら難民に関する周知活動や募金を企画し、NPO や NGO に働きかける。
  - ・SNS (Facebook や Twitter) で周知活動を行う。

## 感想

私は以前から難民問題に興味があったのですが、日本の中での難民問題についてはほとんど知らなかったのでこの分科会を選びました。

今回の討論を通して一番感じたのは、難民の方への先入観や偏見をなくすにしろ、異文化理解をするにしろ自分で実際に難民の方と触れ合うのが大切なのではないかということです。

相手の立場に立ってみないとわからないこともたくさんあると思います。

今回の熱い討論を通して学んだことを、これから難民問題について考える上で生かせたらと思います。

高2 藤村 なほ

私がこの子ども国会を通して思ったことは、「こんなに深くて楽しい討論は他にない！」ということです。子ども国会では、自分の意見も発信できる上、周りの仲間の様々な視点からの意見を知ること、さらに自分の考えを深めたりすることができます。このような機会に出会うことはめったにないと思います。私は、この夏、最高に楽しい仲間と最高に深い討論をすることができました。私は本当に幸せです！ 最高の夏をありがとう！

高2 堀内 彩夏

私がこの分科会を選んだのは、貧困とはよく聞くけど、難民 しかも私たちの住んでいる日本である問題を全くと言っていいほど知らなかったからです。

今回四度目の参加でしたが、周りはみなさん高校生以上だったので、普段はできない新鮮で貴重な経験でした。ありがとうございました！！

中3 近藤 レオナ

私がこの分科会を選んだのは“難民支援”を具体的にどのようにやっていくべきかを沢山のひと々とさまざまな側面から考え深めていきたいとなと思ったからです。

実際に討論して、やはり自分一人だけでは思いつかなかったような斬新な意見やユニークな発想がでてきて意見も深まり、私たちなりの解決策をみいだせたのではないかと満足しています。

高2 児島 桜子

初めての子ども国会でしたが、“日本の難民と私たち”という分科会のもと、普段できないような深い討論を行うことができとても充実した時間になりました。

“難民”というのに興味は、アフリカやアジアの地域研究という面から興味があったのですが、今回は日本に居るといってより身近な存在、また多角的なアプローチによる現状の解決策を探るといって、より一層、理解を深めることができました。ありがとうございました。

高3 宇都木 大樹

# 経済格差

参加者：藤森史恩, 竹内拓海, 鈴木拓実, 高瀬隼, 石坂恒太, 平塚啓太,

島田哲治

現在の日本の貧困率は、OECD 加盟国 34 カ国のうち 5 位と、先進国の中ではかなり高い水準にあるといえます。しかし、失業率でいえば、日本は 4% とそれほど高くはありません。つまり、日本は、職に就いている国民の割合の高さとは対称的に、貧困に苦しむ国民もまた多く、経済格差の大きい国であるといえます。このことは、OECD 内での所得不平等度第 6 位というデータからも読み取れます。

この経済格差から、次にあげる 4 つの問題が浮上しました。

- ・税制について
- ・社会保障について
- ・非正規雇用について
- ・教育格差について

## 財務省の方へ

### ◎税制について

消費税は、所得に関わらず国民に一定の負担を課すため、貧困層にとっては所得に対する負担の割合が大きく、経済格差を助長する一因となっています。その消費税を一律増税すると、格差はさらに拡大すると思われます。そこで我々は消費税のプランとして、増税に関する次の政策を提言します。

#### 「食料品以外の商品に消費税を累進的に課す」

具体的には、食料品以外の

1円以上1万円未満の商品に8%

1万円以上10万円未満の商品に10%

10万円以上250万円未満の商品に15%

250万円以上の商品に20% の消費税を課す

まず、生活の必需品である食料品の消費税は、貧困世帯の負担を増やさぬよう、5%に据え置きます。その他の商品に関しては、食料品ほどの不可欠さはないと思われるので、増税します。その際、より高価な商品をよりぜいたくなものとみなし、累進的に課税することによって、ぜいたく品を買えるほどの財力を持つ世帯に多額の税金を課すことができ、格差の縮小が期待できます。

次に、商品価格の範囲設定について説明します。まず1円以上1万円未満の商品には、食料品に次いで不可欠な衣料品が多く含まれるため、比較的低い税率8%としました。その次の1万円以上10万円未満の商品には一般的な家電製品が多く含まれ、一概にぜいたく品とくくれない部分があるので、税率10%としました。その次の10万円以上250万円未満の商品には高価な家電製品や一般的な自動車などが含まれ、それらの普及率もさほど高くないと思われるので、税率15%としました。最後の250万円以上の商品は、不動産のような一生に一度あるかないかというほど高価な買い物となりうるので、税率20%としました。

以上が我々の考えた消費税の増税プランの全容です。御検討の程宜しくお願ひします。

## 厚生労働省の方へ

### ◎経済格差と社会保障について

経済格差により憲法第 25 条の生存権に格差が生じます。そのため社会保障は格差是正の一端を担っていると言えます、そこで、最低限度の生活を営むにあたって、労働と生活保護の 2 点に注目しました。労働では雇用環境の改善と、就労支援で、生活保護ではその不正受給についてです。以下が注目した理由と提言したい政策です。

非労働者を 3 つに分類しました。

- ①諸事情で働けない人 (ex.障がい者)
- ②働きたいのに働けない人 (ex.就職活動者)
- ③働きたくない人 (ex.ニート)

そこで、③への保障をもっと②にまわして、よりセーフティーネットを厚くすべきと考えました。なぜなら②は生存権ではおさまらず、働く権利を有しているからです。

次に、③の生活保護の不正受給やその依存について考えました。③になる理由として、最終的な(税などをひいた)最低賃金による収入が、生活保護の受給額より低いからというのがあります。だから働かず、生活保護に依存したり不正受給したりしてしまうのです。そのため、生活保護の給付には、より正確な見極めが必要です。

提言する政策を考えました。

#### 1. 政府の雇用のあっせんと生活保護の同時給付

③に税金を与えたくないという国民感情があります。その理解を得て、③を更生させるために、被災地ボランティア・清掃活動・公共事業・農業事業などの義務を課すことを条件に、充実した生活保護を給付することにしました。

#### 2. 職業訓練を受けさせると同時に生活保護を給付

②の中には、就労にあたって能力が足りずに苦勞する人が多く、それが経済格差をまねいていました。よって、1 と同様のシステム導入を提言します。

→1、2 の生活保護の仕組み

##### 1. 受給可能者

就労可能年齢を満たし、健康で労働できる者

## 2. 保障

勤務時間×450 円\*

+

最低限度の生活を送ることのできるための保障

{ 医療  
住宅  
交通費手当  
教育費  
子ども手当

※時給 450 円というのは、最低賃金で働く者より低い額かつ、光熱費と食費と自由に使うためのお金を考慮した額ということから決定しました。

以上です。御検討のほどよろしくお願いします。

## ◎非正規雇用について

現在の日本には膨大な数の非正規雇用者がいます。しかし、非正規雇用者は企業の都合により簡単に切り落とされてしまうことや、非正規雇用は給与が少ない上、生活保護の方が待遇が良いなど、非正規のみに頼る生活は安心できるものとはとても言い難いものです。

日本の“失業率が低いのに貧困度が高い”という原因の一つは非正規雇用者の多さもあるのではないのでしょうか。

そこで私たちは次の政策を導入します。

非正規雇用者を扱っている企業において、非正規雇用者と正規雇用者がいる場合、その人数の全体に対する割合に応じて、年ごとに法人税を是正する

企業側は正規雇用者を雇うため、経費が嵩むが、その代わりに法人税が是正されるため、デメリット無しに正規雇用者を雇うことができ、非正規雇用者は、収入が安定していて、保障もある正規雇用者になることができます。

政策導入により、まず現状で問題であった“失業率が低いのに貧困率が高い”ということが解決されます。

また、非正規から多くの人が正規になるので、彼らの収入が増えることにより、所得税を多く取ることができます。所得が増えることにより、現在低迷している景気の回復も見込まれます。

そのため、政策導入時の是正における税収の低下を上回る税収を確保することが期待できます。

以上が私たちが考えた非正規雇用についての政策です。



## 文部科学省の方へ

### ◎教育格差について

親の収入が高い子どもには、塾などの教育機会を豊富に得ることができます。しかし、親の収入の多い子どもは、塾などの教育機会が乏しくなってしまいます。そのため、そういった子どもたちは収入の多い子どもたちに比べ、学力に差が出てしまい受験などの際に不利になってしまいます。日本の学歴社会では、学力の高い子どもたちが将来多くの収入を得ることができます。しかし、学力の低い子どもたちは、低い収入しか得ることができません。このように、学力が将来に反映されるため、教育の機会に差があることは、非常に問題です。なので、次のように政策提言をします。

#### 1. 一定の所得以下の人しか行けない公立の塾を作る

なお、これは、国公立中学への受験が前提である。さらに、子どもたちの受験に対するやる気をはかるため、定期的にテストを行い、公立塾に通う必然性があるかどうか判断する。

#### 2. 放課後に、教員志望や教育に興味・関心のある大学生を募り、補習授業をさせる

#### これらの政策による効果

親の収入が乏しくても、特殊な受験を行う国公立の試験の対策を立てることができたり、塾に行かずとも、しっかり補習を受けたりすることができます。

また、大学生を教育現場に導入することで、将来の有望な教員を養う契機ともなるし、大学生に授業をさせることで、教師に負担をかけずに補習を行うことができます。

## 感想

討論の内容がとても難しく、理解するのに苦労しましたが、経済格差についてたくさん学ぶことができました。また、今回の討論で経済格差に対する関心がより高まりました。これからも経済格差についてたくさん学んでいきたいと思います。

中1 藤森 史恩

私は高校3年生ですが、この会議で小学生、中学生の意見を聞いて、とても興味深く思いました。やはり子どもの意見は大切です。

高3 竹内 拓海

様々な意見を聞く機会を持って、良かったと思います。消費税についての討論では、全く意見がまとまらなかったのに、累進制でまとまったことについては驚きました。多くの人を一つの政策で納得させることは全く楽でないことがわかりました。

高2 鈴木 拓実

子ども国会という場を通して、普段はあまり話さない内容について濃く議論ができたことを嬉しく思います。

高2 高瀬 隼

# 成人 ～大人ってなんだろう～

参加者名：宇佐美龍 猪俣大輝 田鍋すみれ

鎌田将晴 菊地修治 森田聡

本班では大人の理想像とそのためすべきことを実施することが必要かどうかについて話し合いました。

まず現実の大人を見ていて大人だと感じるどころ、逆に子供っぽいと感じるところについて話し合いました。メンバーとともに、子供っぽい部分について考えていったときにそれによって生じる問題点についても合わせて話しあいました。サラリーマンに置き換えて考えてみた結果、以下のようにになりました。

## [問題点]

※サラリーマン設定

- ・自分で受けたことを実行できない→自分で引き受けた仕事をこなせない
- ・中途半端→自分で引き受けた仕事をこなせない
- ・判断が他人任せ→意見が画一化し、個人の主張が通りにくくなる
- ・常識的な行動がとれないことがある→相手の心証を悪くする
- ・自分のことしか考えられない人→職場の雰囲気悪くする
- ・自己主張が激しすぎる人→職場の雰囲気悪くする
- ・自分の行動に責任を持ってない人→物事を決定できない
- ・話さずにある程度理解できない人→融通がきかず、意思の疎通がしづらくなる
- ・気が利かない人→相手の心証を悪くする
- ・計画性がない人→仕事をため込んでしまう

これらを元にメンバーが大人の理想像について考えてみた結果、以下のようにになりました。

## [理想像]

- ・物事の見通しがつく
- ・客観視できる
- ・メリハリがある
- ・責任感がある
- ・マネジメントできる
- ・頑張りすぎずに加減できる

- ・きっちりしている
- ・自分のキャパシティを把握している
- ・現状分析がしっかりしている
- ・多面的にものを見ることが出来る

上記を元にメンバーの考える(年齢的な意味ではなく)精神的な意味での大人の定義について考えてみました。

## 【「大人」の定義】

1. 広い視野を持って考え、自らの責任で決定し、それを計画的に実行できる人
2. 常識があり且つ気配りが出来る人

上記のような定義を元に大人に必要な能力についてもメンバーで考えてみました。

## 【能力】

- ・責任感
- ・分析力
- ・実行力
- ・判断力
- ・視野の広さ
- ・自制力
- ・マネジメント能力
- ・常識
- ・気配り

上記のような能力を元に自分で出来ることを各自であげてみました。特にイベントを作る・運営するということとキャパオーバー講習の2つについてより具体的に考えてみました。

## 【自分たちの出来ること】

- ・インターン
- ・ルポかノンフィクションの読書
- ・競技ディベート
- ・議長の経験
- ・留学する
- ・技術を身につける
- ・イベントに行く

## 【お願いごと】

- ・映像教育
- ・道德教育に大人について取り入れる
- ・キャパオーバー講習
- ・対大人への道德教育
- ・環境作り
- ・自己アピールを必要とする機会を作る

## 【自分たちで大人になるために出来ること】

1. キャパオーバー講習…これは、「自分の限界」を知るためにわざとキャパシティをオーバーするようなタスクを与えることである。これを行うことにより、計画を立てて物事を進める能力、無理はしないように周囲の人に助けってもらう能力、自分の限界を知る能力が身につく。これにより、広い視野を持って考え、自らの責任で決定し、それを計画的に実行出来るようになる。
2. イベントを作る・運営する…イベントの主催・運営を行うことで先ほどの理想像にあったさまざまな能力が得られると考えました。具体的には円滑な活動を行っていく上で必要となる常識や気配り、企画を作る団体でその企画を分析する能力、分析した企画をまとめ、タスクを振り分けるなどのマネジメント能力、その計画を実行する実行力、企画を達成する段階での責任感を学ぶことができ、実際に様々な人たちと出会い、運営など様々な経験をしていくことで、自らの視野を広げることが出来る。上記のようなものを確実に自分のものとするために、企画のフィードバックなどをしっかりと受け止め、向上心を持って活動に臨んでいくことが必要となる。

## 【要望】

以上のように自分たちが出来ることについては尽力しますが、インターンなどにおいても現状ではとてもやりやすいとは言えません。行政機関には[自分たちで出来ること]や[お願いごと]を含め、現状より容易にチャレンジできる環境づくりをお願いしたいです。

## 感想

討論会、お疲れ様でした。

登録期限ぎりぎりで申し込んだので、子ども国会唯一の第2希望だったのですが、意外と楽しかったです。最初に理想の「おとな」について意見を出し、その対比となる現状分析を行いました。その中で自分たちが可能なことと政府などをお願いしなければならないことを分けました。

作業中は作業ペースも早く、睡眠時間不足を補うべく休憩時間を1時間おきにとっていたいたのでありがたかったです。

宇佐美 龍

長い討論会、おつかれさまでした！

今回の成人議題では理想の大人像からその改善方法について考えてきました。いつもどおり発言し続け場を荒らしまわってしまいました。皆さんと普段より少ない人数でより詳しく議論できてとても面白かったです！

子ども国会は非常に珍しい泊りがけのイベントです。このイベントのこの議題に参加できてとても面白かったです。自分の高校生活の中でとてもすてきな経験になりました。

最後にこのような会を主催して下さった実行委員の皆さん、ありがとうございました！

猪俣 大輝

この分科会の討論は、とても楽しいものになりました。私は子ども国会に参加するのは今回が初めてでしたが、最初の自己紹介で不安は一瞬にして消えました。「おとな」について真剣に考える機会はなかなかないので、今回の討論はとても良い機会になりました。私は意見を出すのはあまり得意ではないのですが、他の方々が積極的に意見を出してくれたので、有意義な討論が出来ました。また、メンバーの方々とも仲良くなることができ、とても楽しかったです。今回、この分科会で討論出来て、最高でした！！

実行委員の皆さん、楽しい機会を提供して下さいありがとうございました。

本当にお疲れ様でした。

田鍋 すみれ

# 日本×スポーツ

参加者名：馬場貴也, 野村亮輔, 馬場裕也, 平岡喬之

## 討論の流れ

① 「スポーツとは」

思い浮かぶことをブレインストーミング



グループに分ける



「人・役割」 監督、応援、審判など

「競技」 団体、個人競技

「オリンピック」

「使うもの」 ボール、グラウンドなど

「身体」 筋肉、骨、食事など

「イメージ」 練習、試合、仲間、勝敗、ルール、楽しむなど



アメリカにはいろいろなスポーツがある

審判のいる競技、いない競技

ルールの重要性

こういった話が出た。

② ブレインストーミングの結果でてきたグループについて話し合った。



[競技]・・・団体と個人 大事なこと：目標、ライバル、責任、努力、継続

[オリンピック]・・・世界の頂点、人種や民族 ⇒アメリカと中国の強さ=環境が良い

[人と役割]・・・監督：責任 コーチ：指導(ルール、精神、技術)

審判：ジャッジ、採点、勝敗の決定

応援：一緒に戦う仲間、テレビと実際に観に行く違い

③ ①と②をふまえてなぜスポーツをするのか?

◎健康のため

・仲間のため

・きたえるため

・仕事(ビジネス)のため →

・楽しむため

◎高齢者の健康のため



次項に続く

## 2つの◎とスポーツの盛り上げる方法

### ◎健康について

- ・肥満
- ・メタボリック
- ・糖尿病、生活習慣病、心筋梗塞
- ・運動しなければ早死にする



より運動をする必要がある

- ・チラシで宣伝
- ・ゲームで運動
- ・テレビで「スポーツをするべき」

### ◎高齢者について

- ・スポーツをやったら寿命がのびる
- ・体がじょうぶになる
- ・最期の時まで元気
- ・長く働ける
- ・医療費の節約



高齢者にスポーツをさせるには

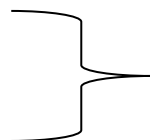
- ・小学生と一緒にやる
- ・スポーツのゲームをする

### ◎スポーツを盛り上げるには

- ・スポーツができる場所をつくる
- ・会社で運動会、埋立地にスポーツ施設をつくる
- ・マイナースポーツの活用
- ・小・中学校でスポーツをやる、オリンピックで身近に感じる、自治体の講習会

以上3点の中から特に

- ①スポーツができる場所をつくる
- ②マイナースポーツの活用
- ③高齢者





## 政策提言

### ①

今ある問題は、スポーツをする場所が少ないということです。公園や空き地などの身近にスポーツをする所があまりないことです。そこで、もっと身近なところに子どもから高齢者までもが使える場所を増やしたいです。

そのためには、今の季節だと例えば夏祭りの企画でマラソンコースを決めて町内でマラソン大会を開いたり、大人の人が働いている企業の中での運動会の開催を義務化させたりすることで、地域や企業内全体で盛り上がるができるので、それぞれのつながりを深めることもできます。また、海沿いの埋め立てられている空き地を活用し、プールやテニスコート、陸上競技場などのあるスポーツ施設をつくることで、いろいろなところから来た人たちがここに集まり、いろいろなスポーツを通して地域を超えた幅広い関係が生まれます。

### ②

今ある問題は、まだあまり知られていないスポーツがあるということです。理想は、そんなスポーツも身近に誰でも出来るような環境を作ることができればいいと思っています。また、みんなに広く知ってもらった時に本格的にやる人が出てきて、日本代表としてオリンピックに出るようになれば、もっと競技人口が増えて最終的には野球やサッカーのようないつでもできるスポーツになればいいと思います。

そうするためには、まず実際に外国の選手がプレーしているのをオリンピックを通して身近に知ってもらうことや、各自治体が講習会を開いて多くの人たちにその競技の良さを知ってもらう。そして、そんなマイナースポーツを選択制でもいいから、小・中学校の体育の授業に取り入れてみる。

こうしたことを積み重ねることで注目度が低かったスポーツもだんだん普及して行って、メジャーなスポーツをしていた人がそちらに興味を持ち、その道で才能を発揮できる人もでてきて、いつかオリンピックでメダルをとる人が現れるでしょう。

③

今ある問題は高齢者が多く、日本が高齢化社会になっていること。またその高齢者があまり運動をしていないこと。それによって、高齢者が早死にしていまい病気になるやすく不健康であること。特に外に出て運動しないことが多いです。

理想は、高齢者になっても健康でじょうぶな体であり、長生きし人生の最後まで元気なこと。こうすることで高齢者になっても長く仕事ができます。それによって年金を少なくでき、国への負担が減らせるのと同時に医療費を節約できます。

そのために小学生が学校の授業の総合的学習で高齢者に一緒にやろうと声をかけて、一緒にスポーツをできるようにします。なぜかというと大人よりも子どもの話なら高齢者が耳を傾けやすいからです。また、最近家庭用ゲーム機にも自分が動いて操作するという機能がついていますからそれを利用して、家の中でも高齢者ができるようなソフトをつくるようにしたいです。

### 以上 3 点の政策を

文部科学省並びに地方自治体の皆さま

に提言いたします。

## 感想

今回の討論で、いろいろみんなの意見が分かってとても勉強になりました。

中1 馬場 貴也

今日の討論では、スポーツを議題に話し合いましたが、「スポーツ」と一口に言ってもたくさん意見が出てきたのでとても楽しかったです。僕は、この子ども国会に参加することができてとても嬉しく思います。

中1 野村 亮輔